

Title	Boole 空間ニツイテ
Author(s)	小笠原, 藤次郎
Citation	全国紙上数学談話会. 230 p.742-p.752
Issue Date	1942-01-20
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/74929
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

999. Boole 空間 = ツイテ

小笠原 藤次郎 (廣島文理大)

vector lattice / “表現論”⁽¹⁾ へ / 補足ト並ビニ, ソ
ノ作用素論等へ / 應用ヲ可能ニスル足場ヲ作ルコトが目的デ
アル。“表現論”が Archimedean / 場合ニ於テモ
complete / 場合ト本質的ニ大差ナク成立スル根據ハ何
カ。コレヲ前田先生 / 表現法ヲモトニシテ明確ニスルタメ
§1, §3 デ Stone / 着想⁽²⁾ヲ補ッテ Boole 空間トソノ上ノ

(1) 前田文友, 小笠原藤次郎, vector lattice / 表現。以後
コノ論文ヲ“表現論”ト呼ブ。

(2) Stone, Proc. Nat. Acad. Sci. 26 (1940), 280-283 .

連続函数, *vector lattice* ト, 関係ヲ調べ §2 デハ 上記問題ノ解答トシテ Archimedean vector lattice ハ無制限 = join, meet ヲ保存シテ complete vector lattice = 埋藏サレル⁽³⁾. コトヲ示ス. §4 デハ 前田先生ノ *measure* ノ補足ヨリテハ “表現論” ヘノ 簡單 + 補足ヲ加ヘタ. 應用 = ツイテハ 本誌ヲ開エ + ク論ズルコト = スル.

§1. 定理 1.1. Ω ヲ *Boole* 代数 A ノ 表現 *Boole* 空間トスルトキ次ノ 諸條件ハ 互ニ 對等デアル.

(1°) A ハ *complete* デアル.

(2°) Ω ノ 任意ノ *Borel* 集合ハ 第一種集合ヲ法トシテ Ω ノ *basic open set*⁽⁴⁾ ト一致スル.

(3°) Ω 上ノ 任意ノ B -可測 (*Borel* 可測, コト) 有界函数ハ 第一種集合上ヲ除イテ 連続函数ト一致スル.

(4°) 第一種集合ヲ除イテ 有限値ヲトル Ω 上ノ 任意ノ B -可測函数ハ 非稠密集合ヲ除イテ 有限値ヲトル 連続函数ト 第一種集合ヲ除イテ一致スル.

(証) *basic open set* ハ O 或ハ O_α , 開集合ハ G , *Borel* 集合ハ B 或ハ B_α , 第一種集合ハ P 或ハ P_α 等ヲ表ス.

(1°) \rightarrow (2°) ノ 証. \mathcal{M} ヲ $O \triangle P$ (O ト P ノ 對稱差) ノ 形ヲモツ 集合ノ族トシテ (i), (ii), (iii) が成立スルコトヲ示セバ可ナリ.

(i) $E \in \mathcal{M}$ ノ トキ $E^c \in \mathcal{M}$ (ii) $E_n \in \mathcal{M}, n=1, 2, \dots$ /

(3) 中野修五郎, 紙上談話會. 1941, 915

(4) 開且開集合ノコト.

トキ $\sum E_n \in \mathcal{M}$ (iii) $G \in \mathcal{M}$. コノ \Rightarrow (i), (iii) ハ
自明 (ii) ハ $E_n = O_n \Delta P_n$ ヨリ $\sum E_n \Delta \sum P_n \subseteq \sum P_n$ カラ明.

(2°) \rightarrow (3°) ノ証. $f(p)$ \neq 有界-B-可測 トシ $E_\alpha = [f(p) < \alpha]$
(α ハ有理数) ト置ク. 假定ヨリ $E_\alpha = O_\alpha \Delta P_\alpha$ が成立, コ
レヨリ $\alpha < \beta$ ノトキ $O_\alpha \subset O_\beta$ が成立スル. 連続函数 $h(p)$ \neq
次ノ如ク定メル.

$h(p) = g.l.b. \{ \alpha; p \in O_\alpha \} = l.u.b. \{ \alpha; p \notin O_\alpha \}$
コノ $h(p)$ が問題ノ連続函数ナルコトが容易ニ示サレル.

(2°) \rightarrow (4°) ノ証 (2°) \rightarrow (3°) ノ証ニ準ズル.

(4°) \rightarrow (3°) ノ証 自明.

(3°) \rightarrow (1°) ノ証 α \neq 任意ノ index ノ集合ノ要素ト
スル. $f_\alpha(p)$ \neq O_α ノ特性函数トシ $f(p) = l.u.b. f_\alpha(p)$
ト置イテ (3°) = ヨツテ $f(p)$ = 對應スル連続函数ヲ $h(p)$ ト
スレバ $h(p)$ ハ $\sum O_\alpha$ ノ特性函数トナルコトが示サレル. コ
レカラ (1°) ノ成立が明トナル.

定義 定理 1.1 ノ証明中ノ \mathcal{M} ノ集合ヲ單 = 可測集合,
 \mathcal{M} = 関シテ可測ナル函数ヲ單 = 可測函数ト呼ブ.

定義 第一種集合上ヲ除イテ一致スル函数ハ對等ナリト
イフ.

以下 Ω 上ノ函数ハ第一種集合ヲ除イテ有限値ヲトルモ
ノトスル.

定理 1.2 Ω \neq Boole 代数 A ノ表現 Boole 空間トス
ル. A \neq complete トスルトキ次ノ條件ハ互ニ對等デアル.

(1°) $f(p)$ ハ Ω 上ノ可測函数デアル.

(2°) $f(p)$ は Boolean 性質ヲモツ。

(3°) $f(p)$ は連続函数ト對等デアル。

(証) 定理 1.1 の証明カラ自明。

定理 1.3 Ω は bicomact Hausdorff 空間トシ、 Ω 上ノ有界連続函数族ヲ \mathcal{L}_b 、非稠密集合ヲ除イテ有限値ヲトル連続函数族ヲ \mathcal{L}_Ω トスル。コノトキ次ノ諸條件ハ互ニ對等デアル。

(1°) Ω は complete Boolean algebra、表現 Boolean 空間デアル。

(2°) \mathcal{L}_b は complete vector lattice デアル。

(3°) \mathcal{L}_Ω は complete vector lattice デアル。

[注意] (3°) = 於テハ \mathcal{L}_Ω ノ函数ノ和ハ有限値ヲトル点、ミテ單独的ニ定コルヤウ定義サレルモノトス。詳細ハ以下ノ証明カラ明瞭ニナル。

(証) (2°) \rightarrow (1°) ノ証 Ω ノ開集合ノ basis トシテ $0 \leq f \leq 1, f \in \mathcal{L}_b = \text{ヨル } [f > 0]$ 、全体ガ與ヘラレルコト自明。

今 $p_0 \in \Omega$ テ $f(p_0) > \alpha > 0$ トスレバ $f_1 = (f - \alpha) \vee 0$ トオクト $[f > \alpha] = [f_1 > 0]$ ガ成立スル。 $f_n = n f_1 \wedge 1, n = 2, 3, \dots$ トオイテ $\bigvee_n f_n$ ヲ考ヘルト、コレハ $\overline{[f_1 > 0]}$ ノ特性函数ヲ表ス連続函数トナル。従ツテ $\overline{[f_1 > 0]}$ ハ開且ツ閉即チ Ω ハ Boolean space トナル。 $\mathcal{K} = \text{basic open set } O_\alpha$ ノ族ヲ與ヘソノ特性函数 $f_\alpha(p)$ カラ $\bigvee_\alpha f_\alpha$ ヲ作ルトコレカラ $\overline{\sum O_\alpha}$ ガ開集合ヲ作ルコトヲ知ル。故ニ Ω ハ com-

plete Boolean algebra / 表現空間デアル。

(1°) \rightarrow (3°) / 証. $f, g \in \mathcal{L}_\Omega$ / トキ $f+g$ / 定義 / 可能性及ビ $f_\alpha \geq 0$ / トキ $\bigwedge_\alpha f_\alpha$ / 存在証明ヲ行ヘバ充分デア
ル. 有限値ヲトル点デ $f(p) + g(p) =$ ヨツテ $f+g$ / 値ト
定メコレト對等 + 連続函数 h / 以テ $f+g = h$ ト定ムル.

$f(p) = g$. \mathcal{L}_Ω 上 $f_\alpha(p)$ ト置クトキ $f(p)$ ハ 上半連続函数
デアル. コレト對等 / 連続函数 h トスレバ $h = \bigwedge_\alpha f_\alpha$ トナ
ル.

(3°) \rightarrow (1°) ハ 自明. 依ツテ定理ハ 完全ニ 証明サレ
タ。

(注意) 本定理ノ條件が成立スルトキ \mathcal{L} / 中含ム \mathcal{L}_Ω /
vector sub-lattice トスルトキ \mathcal{L} / 函数ニヨリ 區別
シ得 + イ点即チ \mathcal{L} / 函数が常ニ相等シイ値ヲトル点ヲ恒等視
シテ $\text{Zerlegungsraum } \mathcal{B}\mathcal{L}$ / 作ツテ \mathcal{L} / $\mathcal{B}\mathcal{L}$ 上ノ
vector lattice ト考ヘルコトが出来ル. $\mathcal{B}\mathcal{L}$ ハ $\mathcal{L} =$ ヨリ
單独的ニ定ムル bicomact Hausdorff space デ $\mathcal{B}\mathcal{L}$
上ノ 有界連続函数ハ \mathcal{L} / 函数デ一様ニ近似スルコトが出来ル.
コノ 互相的 手続ハ 周知ノ コトデアルカラ 改メテ述ベルヲデモ
ナイ. 以下 $\mathcal{B}\mathcal{L}$ / 作ルコトヲ \mathcal{B} / $\mathcal{L} =$ 依ツテ reduce ス
ルト云フコトニスル。

§2. “表現論” / 第二節ノ記法及ビ結果ヲ利用スル.
 \mathcal{L} / Archimedean vector lattice トシ, \mathcal{I} /
normal ideal / 全体ヲ \mathcal{N} トスレバ \mathcal{N} / complete
Boolean algebra / 作ル. \mathcal{I} / 表現空間 \mathcal{B} 上 $\mathcal{L} =$ 對

應スル連続函数, *vector lattice* \mathcal{L} トシ \mathcal{L} ノ函数
 =ヨリ *majorize* サレル⁽¹⁾ \mathcal{L}_0 ノ函数族ヲ $\bar{\mathcal{L}}$ デ表ス. $\bar{\mathcal{L}}$
 ハ \mathcal{L}_0 ノ *vector sub-lattice* トシテ *complete* ナコ
 トハ自明デアルガ次ノ定理が成立スル。

定理 2.1 無制限 = \mathcal{L} ノ *join, meet* ヲ保存スル \mathcal{L}
 ヲ含ム最小ノ *complete vector lattice* $\bar{\mathcal{L}}$ が存在ス
 ル.⁽²⁾ $\bar{\mathcal{L}}$ ハイザレモ $\bar{\mathcal{L}} = \text{linear-lattice-isomorphic}$
 デアル。

(証) 任意, $h \in \bar{\mathcal{L}}$ ヲトル. $g = \bigwedge (f; f \geq h, f \in \mathcal{L})$
 トオイテ $h - g$ トナルコト及ビソノ *dual* が成立スルコトヲ
 示ス. $g \geq h$ ナルコト自明. モシ $g > h$ トスレバ $\alpha \in \alpha(e_\alpha)$
 ヲ適當ニトリ $\alpha \in \mathcal{P}^*$ ノトキ $g(\mathcal{P}^*) > h(\mathcal{P}^*) + \lambda$, ($\lambda > 0$)
 ナラシメ得ル。

今 $x \in \alpha$, $0 < x < \lambda e_\alpha$ ナル x ヲトレバ $f_x(\mathcal{P}^*)$ ハ $\alpha \in \mathcal{P}^*$,
 $\alpha' \in \mathcal{P}^* =$ 従ツテ $0 \leq f_{\alpha'}(\mathcal{P}^*) < \lambda$ 或ハ $f_x(\mathcal{P}^*) = 0$ トナ
 ル. 故ニ $g \geq h + f_x$.

コレカラ g ノ定義ト矛盾スルコトが容易ニ分ル. *dual*
 ナ部分ノ証明モ同様ニ行ヘル. 次ニ M, N ヲ \mathcal{L} ノ部分集合,
 且ツ $x \in M, y \in N$ カラ $x \leq y$ が成立スル *maximal set*
 トスル. コノトキ $\bigwedge (y - x; x \in M, y \in N) = 0$ が成立ス
 ル. コレハ表現空間デ $\bigvee (f_x; x \in M) = \bigwedge (f_y; y \in N) \in \bar{\mathcal{L}}$
 が成立スルコトカラ知ラレル. コレカラ証明ノ本筋ニ入ル。

(1) $|f| \leq g, f \in \mathcal{L}$ ナル如キ $h \in \mathcal{L}_0$ ノ全体.

(2) 中野秀五郎, 紙上談話會 1941, 915.

L の $join, meet$ を無制限に保存する L を含む complete vector lattice を考へたとき L の要素で majorize される要素の全体を \bar{L} とし \bar{L} と \bar{L} とが $L \leftrightarrow L$ の関係を保ち $linear-lattice-isomorphic$ なることを示せばよい。この関係は $x \in \bar{L} =$ 對して $M = (x; x \leq z, z \in L)$ $N = (y; y \leq z, z \in L) =$ 依つて $z = \bigvee_{x \in M} x = \bigwedge_{y \in N} y$ が成立するから \bar{L} と \bar{L} との間は我々、欲する對應が得られることが分る。

以上をヨッテ本定理の証明が出来る。この定理の証明が次のことが分る。

定理 2.2. L は L の $linear-lattice-isomorphic$ に表現できるが L の sublattice として無制限に L の $join, meet$ を保存する表現がある。

定理 2.3. 無制限に L の $join, meet$ を保存する L を含む唯一の最小の σ -complete vector lattice が存在する。

§3. σ -Boolean algebra, 表現 Boolean 空間 = ツイテモ §1 の所論に類するものが得られる。

定理 3.1. Ω を Boolean 代数 A の表現空間とすると Ω の条件は互に等価である。

(1°) A は σ -Boolean 代数である。

(2°) Ω の basic open set を含む最小の Borel 族、任意の集合の第一種集合を法として basic open set と

致スル。

(3°) 任意、有界 Baire 函数ハ第一種集合上ヲ除イテ連続函数ト一致スル。

(4°) (3°)ノ函数ヲ第一種集合ヲ除イテ有限値ヲトル函数ヲ置キカヘテ得ラレル。

定理 3.2 Ω ハ Boole 代数 A ノ表現 Boole 空間デ A ハ σ -Boole 代数ノトキ第一種集合ヲ法トシテ basic open set ト一致スル集合ノ族ヲ \mathcal{M} トスル (\mathcal{M} ハ Borel 族ニナル) トキ次ノ條件ハ互ニ對等デアル。

(1°) $f(p)$ ハ第一種集合上ヲ除イテ連続函数ト一致スル。

(2°) $f(p)$ ハ \mathcal{M} ニ關シテ可測デアル。

定理 3.3. Ω ヲ bicomact Hausdorff 空間トスルトキ次ノ條件ハ互ニ對等デアル。

(1°) Ω ハ σ -Boole 代数ノ表現 Boole 空間デアル。

(2°) L_Ω ハ σ -complete vector lattice デアル。

(3°) L_Ω ハ σ -complete vector lattice デアル。

§4. Ω ヲ complete (或ハ σ -) Boole 代数 A ノ表現 Boole 空間トスル。 Ω ノ basic open set \mathcal{G} 含ム最小ノ Borel 族ヲ \mathcal{L} ノ第一種集合ヲ法トシテ basic open set ト一致スル集合ノ族ヲ \mathcal{M} トスルト \mathcal{M} ハ

Borel 族 \mathcal{A} 上。今 $\mu(a)$, $a \in A$ ヲ、値域ト V 上 Archimedean vector lattice L 上 ∞ countably additive vector 値函数トスル。即チ $a = \bigvee a_n$, $a_n \wedge a_m = 0$, $(m \neq n)$ ノトキ $\mu(a) = \mu(a_1) + \mu(a_2) + \dots$ が成立スルモノトス。 \mathcal{A} 上 \mathcal{O}_a 対スル \mathcal{O}_a basic open set 上 \mathcal{O}_a トスルトキ $\mu(\mathcal{O}_a) = \mu(a)$ トオクトコレハ basic open set 上ノ集合函数トナル。

定理 4.1. $\mu(\mathcal{O}_a)$ ハ L 上, countably additive + vector 値函数ニ拡大サレル。尚 \mathcal{O}_a 上 $\mu(\mathcal{O}_a)$ ト一致スル L 上ノ countably additive + vector 値函数ハ唯一ツシカ存在シナイ。

(証) $E \in \mathcal{L}$ ノトキ $E = \mathcal{O}_a P$ ノ形 (P ハ第一種集合) ノ形ニカサレル。 $\mu(E) = \mu(\mathcal{O}_a)$ ト置クコトニヨリ $\mu(E)$ ノ定義が確定スル。コレガ L 上 $\mu(\mathcal{O}_a)$ 上 countably additive + vector 値函数トナルコトが容易ニ知ラレル。次ニ $\nu(E)$ 上 \mathcal{O}_a 上 $\mu(\mathcal{O}_a)$ ト一致スル countably additive + vector 値函数トスル。 $\mu(E) = \nu(E)$ が成立スル E ノ族ヲ \mathcal{N} トスルトキ \mathcal{N} ハ次ノ性質ヲモツ

(i) $E \in \mathcal{N}$ ノトキ $E^c \in \mathcal{N}$ (ii) $\mathcal{O}_a \in \mathcal{N}$ (iii) $E_n \in \mathcal{N}$, $E_n E_m = 0$, $(n \neq m)$ ノトキ $\sum E_n \in \mathcal{N}$. コレカラ $\mathcal{N} = \mathcal{L}$ トナルコトヲ知ル。

(注意) $\mu(a)$ ガ $a \neq 0$ ノトキ常ニ正ナラバ $\mu(E) = 0$, $(E \in \mathcal{L})$ ト $E \in \mathcal{L}$ ガ第一種集合トハ對等ノ命題ナリ。

定理 4.2 $\mu(\mathcal{O}_a)$ ハ \mathcal{N} 上 $\mu(\mathcal{O}_a)$ 上 countably additive

* ~~vector~~ 値函数 = 拡大サレル。

(証) 定理 4.1 の証カラ自明。

★ A が 単 = Boolean algebra, トキ $\mu(a)$ が additive トスル トキ L が regular complete 且 $\mu(a)$ が lattice 的 = 有界, トキ Ω , Borel 集合 族 上, countably additive + 集合函数 = 拡大サレル。コレハ連続函数空間, 作用素, 解析的表現ヲ得ルタメ = 重要 + モノデアル。コレニツイテハ次, 機會 = ノベル。

§ 5. “表現論”へ 簡單 + 補足ヲ加へル。 L が Archimedean vector lattice トシ § 2 デ述ベタヌウニ L , Ω_L 等ヲ考へル。

(i) 角谷氏ノ定理

L が 単位 e ヲモツトキ Ω_L 上デ L ヲ考へルコトニヨツテコノ定理, 拡張が得ラレル。

(ii) “表現論”デ σ -complete + $L =$ 於テ主 ideal ノ全体 P ヲ媒介トシタ L ノ表現トノ關係。

L が 単位 e ヲモツトキ P ノ表現 Boole 空間ハ Ω_L ト一致スル。

(iii) Stone, 吉田氏ノ方法トノ關係。

L が 単位 = 關シテ有界性, 條件ヲ具ヘタトキ吉田氏ノ maximal normal subspace, 全体ト $(\alpha; f_{\alpha}(z^*), z^* \text{ is fixed})$ ノ全体ガ一致スル。

(iv) “表現論”デ導入サレタ測度ニツイテ。

前田先生ノ可測集合ハトマテ § 4, 172 = 属シ § 4

1. 測度ト一致スル。測度0ノ集合ハ第一種集合デアリ 測度0ノ集合ヲ無視シテ第一種集合ヲ無視シテ デ置キカヘタモ
1, 2, 3ノ所論デヤル。